

同一立場内に複数の評価者がいる  
多特性多評価者データにおける信頼性と妥当性の検討  
—ハミルトニアンモンテカルロ法を利用した MCMC 法によるアプローチ—

早稲田大学 久保 沙織  
早稲田大学 豊田 秀樹

1. はじめに

心理学研究において、収束的妥当性と弁別的妥当性を検討するためには、多特性多方法 (multitrait-multimethod; MTMM) 行列 (Campbell & Fiske, 1959) が有用である。MTMM 形式のデータのうち、評価者を“方法”として扱うデータは特に、多特性多評価者 (multitrait-multirater; MTMR) データ (Conway, 1996) と呼ばれる。本発表では、MTMR データに対して確認的因子分析モデルを適用し、信頼性と妥当性の解釈をする方法について述べる。

2. 目的

MTMR データは、現実場面では主として企業における 360 度フィードバックの結果として得られる。MTMR データでは、1 人の被評価者につき、同一“評価者”内で複数の測定値が得られる可能性があり、その数は被評価者によって異なることが多い。このように同一立場内で複数人から他者評価が得られた場合には、これまでその平均値を用いて分析が行われてきた。

評価者の人数は、測定信頼性に直接影響を与える要因であるにも関わらず、従来の分析では、その影響を適切に評価できていないと考えられる。そのため、信頼性と妥当性に関する解釈もまた、誤ったものになることが懸念される。そこで、同一立場内に複数の評価者がいる MTMR データにおいて、評価者の人数を適切に評価し、測定信頼性および収束的妥当性・弁別的妥当性をより精緻に検討するための方法を提案する。

3. 方法

同一立場内に複数の評価者が存在する場合に、その平均値を用いて確認的因子分析モデルを実行するとき、評価者の人数に応じて誤差分散が異なる。本発表では被評価者ごとに異なる誤差分散の推定を可能にするための方法として、MCMC 法を利用したアプローチを紹介する。また、360 度フィードバックの実データを利用した適用例も併せて示す。

参考文献

- ・ Campbell, D. T., & Fiske, D. W. (1959). Convergent and discriminant validation by the multitrait-multimethod matrix. *Psychological Bulletin*, **56**, 81–105.
- ・ Conway, J. M. (1996). Analysis and design of multitrait-multirater performance appraisal studies. *Journal of Management*, **22**, 139–162.